



書聖・小野道風の誕生伝説地

# 書のまち春日井

書に親しむ文化と伝統が息づくまちです

愛知県  
春日井市

# 「書のまち春日井」の由来

平安時代の三跡の一人、小野道風は春日井で生まれたということが、いくつかの古文獻に見られます。

その真偽は定かではありませんが、古くから春日井の人々は道風がここで生まれたことを信じて誇りに思い、「とうふうさん」と呼び親しんでいました。そして、自然に「私もとうふうさんのように字が上手になりたい。」と思う人が多くなり、書道の盛んな土地柄になりました。

春日井市では、この文化的伝統を大切にして、「書のまち春日井」をキャッチフレーズに、書道文化の振興に力を入れています。

「小野朝臣遺跡碑」にあるように、少なくとも江戸時代中期以前から、春日井の人々は

道風がここで生まれたということを言い伝えてきました。

そして、昭和十九年（一九四四）、道風が生まれて一〇五〇年にあたる年、春日井市松河戸町では小野道風公生誕一〇五〇年祭（道風祭）が開催されました。太平洋戦争末期の厳しい状況にもかかわらず、全国の書家、歌人、俳人など、多くの文化人が参加して盛大に催されました。さらにその五年後の昭和二十四年（一九四九）からは道風祭にあわせて、全国公募の書道展である道風展が開かれるようになりました。その後も、書道文化振興のための催しが次々に開かれています。

道風が生まれたというだけでは「書のまち」とは言えません。春日井の先人たちが「とうふうさんの偉さを後世に伝えたい。」という気持ちから、道風祭などを継続して開催してきたことによって「書のまち春日井」が生まれたのです。



## 小野朝臣遺跡碑

小野道風が生まれたと伝えられる春日井市松河戸町の道風公園内には、「小野朝臣遺跡碑」が建てられています。

「道風がここで生まれたということ」を、松河戸の住民は皆が言い伝えている。しかし、確かな証拠が無いのは残念である。百年、千年の後でも良いから、誰かこのことを明らかにしてほしい。」という内容が刻されています。文化十二年（一八一五）に建てられたもので、尾張藩の儒学者、秦鼎はたかなえが文を作っています。

# 小野道風の業績



小野道風（八九四〜九六六）が生きた平安時代中期は、それまで数世紀にわたって中国文化を取り入れ模倣していた時代に代わって、日本独自の文化を築こうという気運に満ちた時代でした。漢詩に並んで和歌が重んじられ、唐絵とともに大和絵が盛んになりました。また、漢字をもとに仮名が発明されるなど、文学・絵画・工芸・宗教・建築とあらゆる分野に国風文化（日本風の文化）が花開こうとしていた時期です。

書においても、それまでの空海・嵯峨天皇・橘逸勢の三筆に代表される、王羲之・欧陽詢・顔真卿らに強い影響を受けた中国風の書から、和様（日本風）の書が書かれるようになりました。

道風は、王羲之の書をもとにしておだやかで美しい日本風の書を書き、その書は新しい書として高く評価されました。当時の能書（書の上手な人）として最も名誉なことである大嘗会（天皇の即位行事）の屏風や内裏の額字の書き手にも何度か選ばれています。和様の書の創始者として日本書道史上に特筆すべき人物です。

和様の書は、道風とともに三跡と称される藤原佐理（九四四〜九九八）に受け継がれ、藤原行成（九七二〜一〇二七）によって大成され、その後の日本書道に大きな影響を与えました。

## とうふうくん

平成二十年（二〇〇八）の春日井まつりで、「書のまち春日井」のマスケットとして市民の皆さんに選んでいただきました。さまざまな行事に参加して、皆さんに親しまれています。



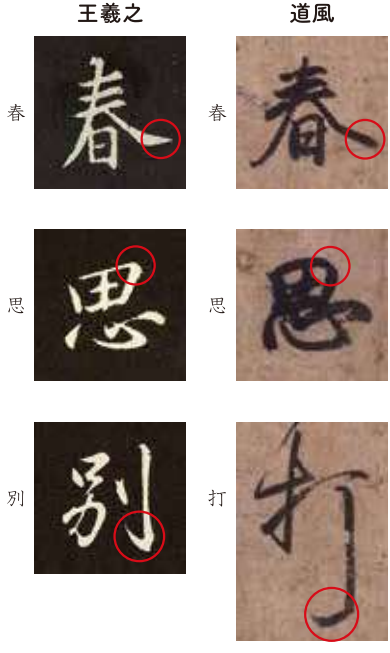
春日井まつり



納涼まつり

# 道風が作った和様の書

小野道風が作った和様の書は、日本人の氣質に合った、全体的にやわらかな感じのする書です。道風は王羲之(四世紀・東晋の人)の書を学んで、それをもとにしたと考えられています。道風と王羲之の書を比較してみましよう。「春」の右はらい、「思」の右上の横画から縦画に移るところ、「打」のはねなど、やわらかな感じになるように工夫をこらしています。



## 現存する道風の書

小野道風の真跡で現存しているものは次の五点のみで、大変貴重です。  
 屏風土代 宮廷に新調された屏風に大江朝綱

の詩を書くよう命じられたときの下書きです。(宮内庁三の丸尚蔵館蔵(東京))

玉泉帖 白楽天の詩をいろいろな書体を交せて自由にかけています。(宮内庁三の丸尚蔵館蔵)

智証大師諡号勅書 天台宗の僧、円珍に智証大師という諡を賜る勅書です。(東京国立博物館蔵)

三体白氏詩巻 白楽天の詩を楷書・行書・草書で二首ずつ書いています。(正木美術館蔵(大阪))

常楽里閑居詩 手本用として、白楽天の詩「常楽里閑居」を書いていきます。(前田育徳会蔵(東京))

このほかに、江戸時代に出版された『集古浪華帖』という木版本には道風の晩年の消息(手紙)が載っています。しかし、残念ながらこの消息の原本は残っていません。ほかに小野道風筆と伝えられる書跡があります。そのほとんどは筆者不明のもので、平安時代のすぐれた筆跡なので道風が書いたのだろうと、江戸時代頃に鑑定されたのです。

## 三跡とは

平安時代中期の能書(書の上手な人)として小野道風・藤原佐理・藤原行成の3人を「三跡」と呼んでいます。

小野道風の筆跡を「野跡」、藤原佐理の筆跡を「佐跡」、権大納言藤原行成の筆跡を「権跡」、その三人の筆跡を「三跡」と呼んでいたのが、いつのまにか筆跡ではなくそれを書いた3人の人物をさすようになったのです。



小野道風筆屏風土代(部分)(宮内庁三の丸尚蔵館蔵)

# 小野道風のひととなり

## 柳に跳び付く蛙

小野道風といえば柳に跳び付く蛙の話を出す方が多いのではないのでしょうか。

「道風がまだ若い頃、書をいくら練習しても上達しないと悩んでいたときのことです。

道風は気分転換のために散歩に出かけました。すると、柳の枝に跳び付こうとしている一匹の蛙に気付きました。柳の枝は高く、とても跳び付けそうにありません。しかし、その蛙はあきらめずに何回も跳んで、とうとう跳び付くことができました。これを最後まで見ていた道風は『どんなことでもあきらめずに努力を続けていけば、きっと成しとげることができる』ということに気付いて、より一層書の練習に励み、とうとう書の大家になりました。」という逸話です。

この逸話がかかれている最も古い文献は江戸時代中期の随筆『梅園叢書』で、そのころに創作されたものだと考えられています。

## 新しい書を創造した エネルギーッシュな道風

実際の小野道風は、自分が作り出した「和様の書」にたいへん強い自信を持っていました。そして、それまで最も尊重されていた空海の書を痛烈に批判しました。新しい書を創造し、それを強く主張していくエネルギーッシュな人物だったのです。道風の書は新しい書として人気が高かった一方、道風の言動は古い権威を重んじる人たちからこころよく思われないこともあったようです。しかし、道風はそうした抵抗をもつともせず、「和様の書」にみがきをかけたのです。



## 花札になった 道風

花札に描かれている唯一の人物が小野道風だということをご存知でしょうか。

現在のような花札は江戸時代に発祥したといわれていますが、そこに道風が登場するのは明治時代になってからです。

明治時代から昭和時代前期までは、特に小野道風の人気が高く、食器などの生活用品にも多くデザインされていました。



## 源氏物語にも登場する 道風の書

紫式部の『源氏物語』の「絵合<sup>あわせ</sup>」の巻のなかに小野道風の名が出てきます。絵巻を批評する場面で、道風の書は「現代的でとてもすばらしい」と表現されています。

道風の書は、それまでの伝統的な書ではなく、新しい書として、道風が生きていたころから人気が高かったのです。

春日井市では書道文化が一層向上、発展するよう、さまざまな取り組みをしています。

## 春日井まつり

毎年十月に開催される春日井まつりは、昭和五十二年（一九七七）から毎年開催されており、春日井市の秋の風物詩となっています。

「文化と融和のふるさとづくりを進めるため、世代や地域を越えて幅広く市民が交流し、感動を共有するとともに、まちに賑わいと活気があふれる市民参加のまつりを目指しています。『書のまち春日井』にちなんだイベントも開催されます。



## Kasugaizadōfū

大きな紙に、音楽に合わせてパフォーマンスをしながら揮毫する書道パフォーマンス大会です。毎回多くの団体が参加し、オリジナリティーあふれるパフォーマンススや豪快な書の作品で観覧者を楽しませていきます。



## 道風平安朝行列

小野道風、藤原佐理、藤原行成の三跡のほか、同じ平安時代の歌人で道風の親戚にあたる小野小町らに扮した行列がパレードコースを歩きます。参加者は一般の方で、狩衣かりぎぬなどを着た男性役や、あでやかな衣装の女性役、可愛い稚児役など、毎年多くの方が参加されます。第九回の春日井まつりから行われており、パレードのなかでも特に壮麗さを誇ります。



## 県下児童・生徒席上揮毫大会



小野道風公遺徳顕彰会が主催する県下児童・生徒席上揮毫大会は、昭和十一年（一九三六）から継続して開催されています。愛知県内の小中学校から各学年二名の選手が参加し、課題の字句を手本なしで、その場で書きます。

歴代の優秀作品は春日井市立小野小学校で大切に保存され、書道教育の変遷を知るうえでも貴重な資料になっています。

# 「書のまち春日井」の取り組み

## 小野道風公奉賛 全国書道展覧会 (道風展)と道風祭



毎年十一月三日には、春日井市松河戸町の観音寺と小野社で道風祭が開催されます。

また、道風祭に奉賛する書道展として昭和二十四年(一九四九)に始まった道風展は、「時代に合った新しい書を創り出す」



という小野道風の精神を受け継いで、現在も継続して開催されています。一般部に漢字、かな、近代詩文、少字数、小品の五部門、学生部に条幅、半紙の二部門があり、毎年多くの作品が寄せられます。書道愛好家の鍛錬の場、書道教育の振興の場として書道という日本の伝統文化の裾野を広げる役割を果たすだけでなく、明日の書壇を担う逸材を輩出する登竜門の役割も果たしています。

## 小学校の書道科

春日井市立の小学校では、全年齢を対象に書道科の授業を導入しています。一年生から筆を持ち、書に親しんでいます。



## 図書館の 道風コーナー



春日井市図書館では、書に親しんでいただけるよう、書道関係図書、書作品、書道関係DVD等を多数所蔵しています。書道関係図書の中でも、さらに小野道風に関する図書を集めた「道風コーナー」を作り、専門書を中心に展示しています。



# 春日井市道風記念館

〒486-0932 愛知県春日井市松河戸町5-9-3 tel 0568-82-6110

<https://www.city.kasugai.lg.jp/shisetsu/bunka/tofu/index.html>

◆開館時間=9:00-16:30 ◆休館日=月曜日(祝休日の場合は翌平日)・年末年始(12/29-1/3)



春日井市道風記念館は昭和56年(1981)に開館した、全国的にも数少ない書専門の美術館です。小野道風が書いたと伝えられる平安時代の古筆から、現在活躍中の書家の作品まで約2,700点を収蔵しています。皆さんに書を鑑賞する楽しさを知っていただくことを目的として、さまざまな書に関する事業を実施しています。

## 常設展

小野道風を中心とする平安時代の精巧な複製品を展示し、道風の業績や日本の書道史を紹介しています。

## 特別展

平安・鎌倉時代の古筆や、古代中国の書の拓本など、貴重な書道関係資料を展示します。会期中には展示内容に沿った講演会を開催します。

## 企画展

子どもにもわかりやすい展示や、郷土の書家の作品展などを開催します。

## 館蔵品展

館蔵の書作品のうち近現代のものを中心に、さまざまなテーマを設けて展示します。

## 道風記念館講座

書に関する講座を開催します。また、夏休みには親子で書を楽しむワークショップなども開催します。

## 道風の書臨書作品展

道風が創始した和様の書の美しさを学んでいただくため、「道風の書臨書作品展」を開催し、毎年多くの方々にご応募いただいています。



- ◆JR名古屋駅からJR中央本線勝川駅下車、タクシー10分、徒歩30分
- ◆名二環上り線は松河戸ICから3分、下り線は小幡ICから5分
- ◆JR中央本線大曾根駅からゆとりとラインで川村駅下車、徒歩10分
- ◆JR中央本線勝川駅または春日井駅からかすがいシティバス南部線で  
一JR勝川駅発車時刻 9時40分・12時00分・14時15分  
一JR春日井駅南口発車時刻 11時18分・13時33分・15時53分



伝小野道風筆本阿弥切(春日井市道風記念館蔵)

